

北海道新聞

発行所

北海道新聞社
札幌市中央区大通西3丁目6
電話 011(221)2111 〒060-8711

読者センター
011(210)5888

直通電話 011(210)
政治部 5590 写真部 5644
経済部 5595 論説 5573
社会部 5555 販売局 5703
文化部 5600 広告局 5710
生活部 5605 事業局 5729
運動部 5639 出版局 5744

小樽支社
電話 0134(22)6171
室蘭支社
電話 0143(22)5161
苫小牧支社
電話 0144(33)5331
ご購入申し込みは
0120-464-104

©北海道新聞社2001

元気な北海道をつくりたい。

中道リース

http://www.nakamichi-leasing.co.jp/

教師「説得」中に女子転落死

第1社会面

郵政3事業職員2万人削減

3面

ロシア産「スワイ」輸入急増

4面

北竜の竜巻は道内で最大級

第1社会面

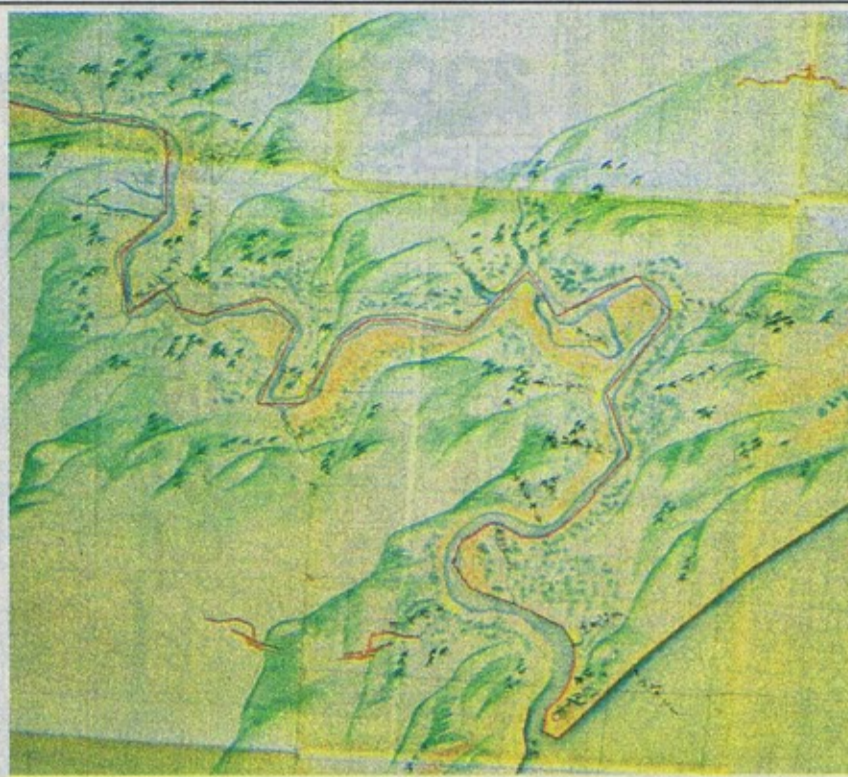
きょうの夕刊
美瑛舞台に
ドラマ制作

道新ホームページ
http://www.hokkaido-np.co.jp

180年前に完成、日本地図の基礎

伊能忠敬の「大図」発見

江戸時代後期の測量家・伊能忠敬(いのうただたか、一七四五―一八一八)がつくった日本地図の中で、列島の地形を最も詳細に描き、全国地図の基礎となった「大図(だいう)」と呼ばれる地図の写し二百六枚を米国議会図書館で発見したと、「伊能忠敬研究会」の渡辺一郎代表理事らが四日、発表した。日本列島を二百四十四に分け、縮尺三万六千分の二で描いた原図は焼失、関東地方など約六十枚の写しが国内に残っているだけ。原図の写しは複数あり、地域が重複している地図を除くと今回の発見で全国の空白部分は六枚分だけとなり、日本の近代地図の先駆けとなった「大日本治海輿地全図」(伊能図、一八二二年)は、北海道から九州までほぼ完全に復元されることになった。(関連記事第2社会面)



米国で写し206枚

焼失原図 石狩川河口周辺も ほぼ復元



幕府は地図を秘蔵していたが、幕末になってドイツ人医師のシーホルトが欧米で紹介。測量技術が優れていたため明治維新後も利用され、明治政府が発行した全国地図の基本図になった。

伊能忠敬 江戸時代後期の地理学者・測量家。1745年、上総国(千葉県)に生まれ、家業の酒造業などを営んでいたが、50歳を過ぎて幕府天文方入門。1800年に北海道から九州まで全国の測量を始め、幕府の援助を受けた測量隊は16年間に4万4千キロを踏破した。1818年に73歳で死去するが、地図作成を引き継いだ高橋景保が1821年に「大日本治海輿地全図」(伊能図)として完成した。

写しは一枚が畳一枚分の大きさで、二百年前の海岸線や集落、法隆寺などの建築物、天体観測地点が忠実に描かれている。渡辺代表理事は「伊能の足取りは日記でしか分からなかった。当時の様子を知る貴重な資料になる」と話している。

大図が米国に渡った経緯は不明。同図書館には一八九七年以降に大図を購入した記録はなく、それ以前に入手したとみられる。国内に残っている写しは測量に用いた線を赤、山を緑で色付けるなど色彩が豊かだが、今回の写しは着色していないものが大半という。

また北海道の部分には当時の軍の管轄を示す「第七軍管」の記載があり、渡辺代表理事は「明治時代、陸軍の測量機関が全国地図を作製するために写した大図が、使用後に何らかのルートで米国に渡ったのではないかと推測している。伊能図は大図のほか、日本列島を八枚に分けた



色丹島

斜古丹山から懐かしの眺め

ビザなし訪問団が撮影

三日まで北方領土・色丹島をビザなし訪問した「色丹島・植物と鳥類専門家交流訪問団」(高田勝団長)の植物班は、島で最も標高の高い斜古丹山(四二二メートル)に登った。同行したロシア側レンジャーによると、日本人が

旧ソ連時代に造られた南側斜面の軍用道の道を登り歩いて約二時間。さまざまな高山植物が咲き乱れる山頂には、一九八〇年代の台風で破壊されたという円形の気象観測施設の跡が残っていた。かつて旧日本軍の施設跡もあったというが、発見できなかった。

北側はふもとまで急斜面が続く。雲海が消える眼下には天然の良港と

速やかな回答要求

政府 協定改定再燃に苦慮

政府は、沖縄県北谷町の婦女暴行事件で、逮捕状の出た米空軍曹ティモシー・ウッドランド容疑者(三)の身柄引き渡しについて、四日夜までに米側の同意が得られていないため、米側に速やかに結論を出すよう求めていく構えだ。

(関連記事第1社会面)

福田康夫官房長官は午後の記者会見で、また(米側は)決定していない」と説明した上で、米側に回答を急ぐように要請していることを強調した。

米側に引き渡した。

暴行 速やかな回答要求

沖繩婦女暴行 米兵引き渡し

中図、三枚に分けた小図があるが、江戸城内にあった原本は明治初期の火災ですべて焼け、東大図現存している。

渡辺代表理事が三月、旬に日本国際地図学会の末、米国議会図書館を訪れて調査したところ、大成して再び渡米、二百六枚の一部を確認。六月中旬、一枚を見つけたという。

四日(独立記念日)で祝日のため、米側の正式決定は、日本時間五日夜以降にずれ込む可能性がある。身柄引き渡しの遅れで「県民感情から許せない」(稲嶺恵一・沖縄県知事)と、犯罪米兵の「起訴後」の身柄引き渡しを

一八九七年以降に大図を購入した記録はなく、それ以前に入手したとみられる。国内に残っている写しは測量に用いた線を赤、山を緑で色付けるなど色彩が豊かだが、今回の写しは着色していないものが大半という。

また北海道の部分には当時の軍の管轄を示す「第七軍管」の記載があり、渡辺代表理事は「明治時代、陸軍の測量機関が全国地図を作製するために写した大図が、使用後に何らかのルートで米国に渡ったのではないかと推測している。伊能図は大図のほか、日本列島を八枚に分けた

また北海道の部分には当時の軍の管轄を示す「第七軍管」の記載があり、渡辺代表理事は「明治時代、陸軍の測量機関が全国地図を作製するために写した大図が、使用後に何らかのルートで米国に渡ったのではないかと推測している。伊能図は大図のほか、日本列島を八枚に分けた